森林と市民を結ぶ全国の集い 2024（第 28 回）
人も生き物たちも喜ぶ森をつくるには？
～地域の自然との共生をめざして～
報告書

■実施日程

2024 年 5 月 8 日（水）～6 月 2 日（日）

5 月 8 日（水）開会式・オンラインセッション 1

5 月 20 日（月）オンラインセッション 2

6 月 1 日（土）・2 日（日）フィールドセッション@福岡・黒木町

■主　催

「森林と市民を結ぶ全国の集い 2024」実行委員会

公益社団法人国土緑化推進機構

実行委員長：内山 節（哲学者／NPO 法人森づくりフォーラム代表理事）

■後　援

日本林業協会、全国森林組合連合会、全国木材組合連合会、全国市長会、全国知事会、全国町村会、森林づくり全国推進会議、林野庁

■事務局

NPO 法人森づくりフォーラム

目　　次

■ 開催趣旨・日程・プログラム概要.....3

■ プログラムレポート.....6

■ 参加実績・参加者アンケート 15

■ これまでの「森林と市民を結ぶ全国の集い」 24

■ 「森林と市民を結ぶ全国の集い 2024」実行委員 スタッフ名簿..... 26

開催趣旨・日程・プログラム概要

■開催趣旨

私たちの暮らしは、森林・自然の恵みに支えられています。
その森林・自然はまた多種多様な生き物たちのすみかであり、
「生物多様性」の宝庫でもあります。

気候変動に対処し、持続可能な社会を形づくる上で
生物多様性保全の重要性は益々高まっています。

多様な生物の生息・生育環境が広がる日本の森林。
今回の「全国の集い」では、森林の生物多様性を育くんでいくために
できることについて考え、行動するきっかけをつくることを目的に開催します。

■日程

実施日時	プログラム名
5 月 8 日（水）18:30〜20:30	開会式・オンラインセッション 1
5 月 20 日（土）19:00〜20:30	オンラインセッション 2
6 月 1 日（土）〜2（日）	フィールドセッション@福岡・黒木町

■参加費

	項目	料金	参加形態
講演動画視聴	無料視聴	無料	オンライン配信（要申込）
オンラインセッション 1＆2	一般（早割）	1,000 円	オンライン配信/アーカイブ
	一般（通常）	1,500 円	オンライン配信/アーカイブ
	学生	500 円	オンライン配信/アーカイブ
	応援・協賛①	3,000 円	オンライン配信/アーカイブ
フィールドセッション（オンラインセッション含む）	一般	6,500 円	宿泊希望（合宿形式）
	学生	5,500 円	宿泊希望（合宿形式）
	一般	5,500 円	宿泊不要,自身で手配
	学生	4,500 円	宿泊不要,自身で手配

※応援・協賛金の一部は「緑の募金」に寄付

■プログラム（出演者 敬称略）

◇基調講演

・**中村　桂子**（生命誌研究者）

『人も生き物たちも喜ぶ森をつくるには？』

・**藤井　一至**（土壌学者）

『人も生き物たちも喜ぶ土をつくるには？』

◇開会式　　5 月 8 日（水）19:00～19:30

主催者挨拶	内山 節（実行委員長／哲学者） 沖 修司（公益社団法人 国土緑化推進機構 専務理事）
来賓挨拶	安高 志穂（林野庁 森林利用課山村振興・緑化推進室長）
趣旨説明とスケジュール 紹介	鹿住 貴之（副実行委員長／（認定 NPO 法人 JUON(樹恩) NETWORK 理事・事務局長））
司会・進行	石山 恵子（遊学の道 project 代表）

◇オンラインセッション 1　　5 月 8 日（水）19:30～21:00

＜森林と生物多様性、これからどうする？～自然共生サイト認定事例から考える～＞

話題提供	高川 晋一（公益財団法人 日本自然保護協会） 石川 晴子（一般社団法人 大和森林管理協会） 荻原 隆行（太陽生命保険株式会社） 田島 大輔（田島山業株式会社）
コーディネーター	坂本 有希（一般財団法人 地球・人間環境フォーラム／フェアウッド・パートナーズ）
コメンテーター	水谷 伸吉（一般社団法人 モア・トゥリーズ 事務局長）

◇オンラインセッション 2　　5 月 20 日（月）19:00～20:30

＜豊かな森づくりに必要な視点とは？～市民の実践とモニタリング事例から考える～＞

話題提供	坂田 昌子（環境 NGO 虔十の会／一般社団法人 コモンフォレストジャパン） 森本 裕希子（公益財団法人 日本自然保護協会／赤谷プロジェクト担当）
聞き手	小森 耕太（認定 NPO 法人 山村塾） 古谷 枝里奈（北海道大学農学部 森林科学科 4 年）
コーディネーター	國岡 将平（合同会社 MANABIYA／智頭町地域林政アドバイザー）

◇フィールドセッション　　6 月 1 日（土）12:00～2 日（日）

＜森のなかで考えよう！豊かな森づくり in 山村塾（福岡・黒木町）＞

会場：笠原東交流センター えがおの森 ほか

集合：福岡空港 6 月 1 日 12:00～バスで会場へ移動　※解散：福岡空港 6 月 2 日 15:00（予定）

行程	
6 月 1 日　12:00	福岡空港集合、バスで移動
14:00	NPO 法人山村塾のフィールド見学 ①針広混交林造成をめざしたパッチワークの森づくり見学 ②造成 30 年のケヤキ造林地の見学 視察の振り返り会
18:45	夕食・懇親会
6 月 2 日　7:00	早朝オプションツアー
9:30	ディスカッション・意見交換会 ・話題提供「さがみの森と生物多様性」坂場光雄 ・話題提供「カブトムシの森・アカマツ林の保全活動」鎌田隆
11:30	閉会、昼食
12:30	バスで福岡空港へ移動

フィールド案内	小森 耕太（山村塾 理事長） 宮園 福夫（山村塾設立メンバー・山林コース担当） 朝廣 和夫（九州大学大学院芸術工学研究院教授）
話題提供	坂場 光雄（フォレスト 21 さがみの森／神奈川） 鎌田 隆（油山自然観察の森 森を育てる会／福岡）
ディスカッション	朝廣 和夫（九州大学大学院 芸術工学研究院 教授） 小森 耕太（認定 NPO 法人 山村塾／福岡）

プログラムレポート

■基調講演（動画配信）

講演①『人も生き物たちも喜ぶ森をつくるには？』生命誌研究者 中村桂子さん

中村 桂子（なかむら けいこ）さん プロフィール

1936 年東京生れ。生命誌研究者。東京大学理学部化学科卒。同大学院生物化学博士課程修了。理学博士。三菱化成生命科学研究所人間・自然研究部長、早稲田大学人間科学部教授、東京大学客員教授、大阪大学連携大学院教授を歴任。「人間は生きものであり、自然の一部」という事実を基本に生命論的世界観を持つ知として「生命誌」を構想。1993 年「JT 生命誌研究館」を創設し副館長。2002 年に館長、2020 年名誉館長。著書に「科学者が人間であること」（岩波新書）、「ふつうのおんなの子のちから」（集英社クリエイティブ）、「ナズナもアリも人間も」（平凡社）、「老いを愛づる」（中公新書ラクレ）、「科学はこのままでいいのかな」（ちくま Q ブックス）、「中村桂子コレクション 8 巻」（藤原書店）など

講演②『人も生き物たちも喜ぶ土をつくるには？』土壌学者 藤井 一至さん

藤井 一至（ふじい かずみち）さん プロフィール

1981 年富山県生まれ。京都大学農学研究科博士課程修了、現在は国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 主任研究員。専門は土壌学・生態学。国内各地、インドネシア・タイの熱帯林からカナダ永久凍土まで、おもしろい土と生き物を求めて、スコップ片手に飛び回っている。第一回日本生態学会奨励賞(鈴木賞)受賞。第三十三回日本土壌肥料学会奨励賞受賞。著書に、『大地の五億年 せめぎあう土と生き物たち（ヤマケイ新書)』『土 地球最後のナゾ 100 億人を養う土壌を求めて（光文社新書)』がある。

■基調講演者 2 名の講演動画は、開催期間中に YouTube に限定公開し（要申し込み）、合計 1,800 回の視聴再生がありました。今後も関心のある方よりお申し込んでいただければ視聴案内して、普及啓発の輪を広げていきます。

オンラインセッション１
「森林と生物多様性、これからどうする？～自然共生サイト認定事例から考える～」

①発表者の発言趣旨、印象に残った発言

１　高川 晋一さん（公益財団法人 日本自然保護協会）

多様な民間による生物多様性保全の動向について解説いただいた。

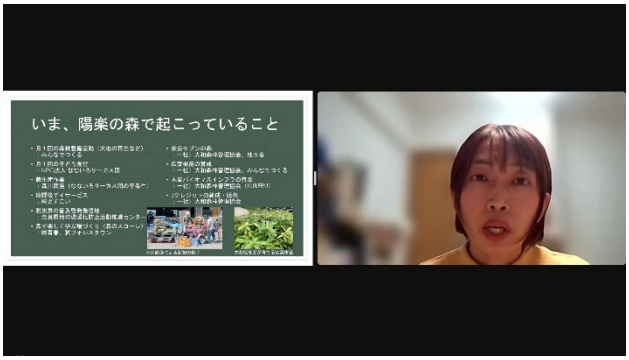
新たな世界目標として国際的に掲げられている「ネイチャーポジティブ（生物多様性の損失を食い止め、反転させること）」は避けて通れない喫緊の課題であり、2022 年に採択された昆明 - モントリオール生物多様性世界枠組では、2030 年までに陸と海の面積の 30%を保全する「30by30」が提唱された。

ただし国立公園のような保護地域だけでは 30%の達成が困難なことから、生物多様性の維持に貢献している地域を OECM（Other Effective area-based Conservation Measures）として認定する取り組みが始まっており、日本では「自然共生サイト」と呼称した認定制度が開始している。

2　自然共生サイトの認定を受けた 3 者から事例報告

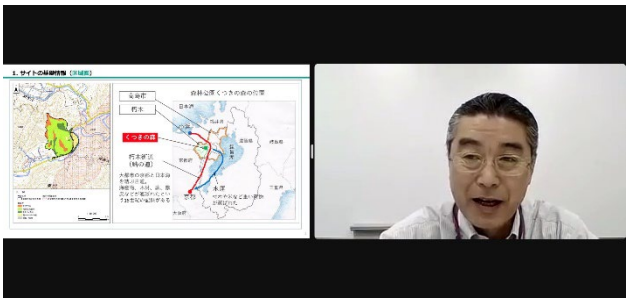
・石川 晴子さん（一般社団法人 大和森林管理協会）

同協会が管理する「陽楽の森」（奈良県）を舞台に市民を巻き込んで食・教育・エネルギーなど様々な分野とのパートナーシップによる「開けた森」の展開が発表された。



・荻原 隆行さん（太陽生命保険株式会社）

滋賀県高島市の市有林における、二次林やビオトープの整備、地元小学校と協働でどんぐり苗を育て、植栽する「どんぐりプロジェクト」の取り組みなどが紹介された。



・田島 大輔さん（田島山業株式会社/大分県）

江戸時代からスギが植林され、持続的に維持管理されてきた自社の人工林が認定を受けた経緯などが紹介された。

②ディスカッションで印象に残った発言

どの取り組みも地域住民や小学校、有識者や専門家など様々な主体が参加して保全活動を実践している。取り組みを組織単独で進めるのではなく、周囲を巻き込み、パートナーシップを構築することによって森づくりを多くの主体にとって自分事化することができ、よりよい循環を生んでる。

③まとめや感想など

大和森林管理協会が市民と一体となって管理する「陽楽の森」はプライベートとコモンの間の存在を目指しており、全国の集いの昨年、一昨年のテーマでもあった「森林コモンズ」の考え方にも合致する。

自然共生サイトの認定事例の過半数は企業による申請であり、その多くは社有林や社有地における取り組みが占める中、行政や地域と連携して認定を得た太陽生命の事例は、社有林を有しない多くの企業にとっても大いに参考になる。

また、人工林が森林の 4 割を占める日本において、田島山業のようにきちんと維持管理された人工林も自然共生サイトの対象になりうることは林業界にとって光明である。今後も、多種多様な主体による自然共生サイトに向けた取り組みがさらに活発化することを願いたい。

＜報告者＞水谷 伸吉
（一般社団法人 モア・トゥリーズ 事務局長）

オンラインセッション２
「豊かな森づくりに必要な視点とは？～市民の実践とモニタリング事例から考える～」

＜趣旨＞
生物多様性を育む森づくりに市民も参加、実践していく為にどのような視点が必要か、市民の実践とモニタリング事例から考えていく。

①発表者の発言趣旨、印象に残った発言
１　坂田 昌子さん（一般社団法人 コモンフォレストジャパン）
「生き物目線の環境改善」というテーマのもと、現場で市民と協働で出来る環境改善の手段として杭と枝、落ち葉だけで出来る「シガラ組み」という伝統的な手法をご紹介頂いた。シガラを組むことで、水の動きが緩やかになり、土の中の空気や水の動きが多様化、複雑化する。その結果、様々な菌や植物をその環境に誘因し、周辺に「喰い喰われる」という生き物たちの複雑な連鎖が生まれていく。坂田さん曰く「大切なのは答え合わせを自分達でしないこと。シガラは失敗しても作り直すのも簡単なので、自然から答えをもらいながらだんだん上手になっていくのがいいんだと思います」

２　森本 祐希子さん（公益財団法人 日本自然保護協会）
群馬県みなかみ町にある国有林約 1 万 ha をフィールドに林野庁、市民、自然保護協会の 3 社が協力して生物多様性の復元と持続的な地域づくりを目的として 20 年に及ぶ活動（通称赤谷プロジェクト）を行っている。センサーカメラによる哺乳類調査は 2008 年から始まり、現在ニホンジカの低密度管理という具体的な課題解決手法に繋がっている。また人工林を自然林に復元する為の伐採試験地でのモニタリング調査は、周辺の光環境を活用した新たな試み（南北伐採デザイン）に繋がっている。20 年に及ぶ試験、調査の一方で「自然林の復元について 20 年程度の初期再生群落では違いが明確ではない」という森本さんの発言は森林・自然の息の長さを物語る。

②ディスカッションで印象に残った発言、Q&A など
シカの食害対策や猛禽類の営巣地の整備等、様々な取組を進める中で「20 年でこれだけしか（できない）」と思うのか、「20 年だったらこんなものか」と思えるのか、森林の再生を考える上では、何百年～何万年というスパンで焦らずに考える事が重要。また、一方で私達が考えているより早く自然が反応してくれることもある。

③まとめや感想など
現代では科学技術の発展により、自然を把握し、大きく改変する事も出来る。森林も「管理・整備」の対象である。一方で今回のお 2 人の事例は地域が持続する為に、自然の営みを尊重し、自分達に

出来る範囲、手を加えてはいけない範囲を適切に見極め、「観察」し続ける事に重点が置かれていた。そこには現場目線があり、「人の寿命なんてたかだか数十年」と言ってしまえる、自然に対する「謙虚さ」がある。ご紹介頂いた１つ１つの取組や成果は小さなものに見えるかもしれないが、豊かな森林と持続可能な地域社会の実現には市民 1 人 1 人がこのような視点を養っていく事が必要不可欠だと考える。

＜報告者＞國岡 将平
（合同会社 MANABIYA）

フィールドセッション
「森のなかで考えよう！豊かな森づくり in 山村塾（福岡・黒木町）」

＜趣旨＞

コロナ禍をきっかけにオンライン中心の集いになっていたが、５年ぶりに現地での宿泊型プログラムを実施することができた。30 年にわたって森づくりに取り組んできた山村塾（福岡県八女市黒木町）のフィールドを訪ね、生物多様性を育む森づくり事例を見学し、二日目の神奈川と福岡での事例紹介を交え、これからの市民参加の森づくりについて考えた。

◆初日：６月１日（土）フィールド見学

案内人：小森 耕太（山村塾 理事長）、宮園福夫（山村塾設立メンバー・山林コース担当）、朝廣和夫（九州大学大学院芸術工学研究院 教授）

フィールド見学①「パッチワークの森づくり」

2007 年から 2016 年にわたって地元共有林（標高 500m、 4.5ha、スギ・ヒノキ林）において、針葉樹と広葉樹の入り混じった豊かな生態系の森づくりを目指し、群状間伐に取り組んでいる場所を見学した。参加者からは、周辺の込み合った針葉樹と年代別の整備区画を一同に眺めることができ、森林整備の意義や成果が分かりやすいといった感想があった。

フィールド見学②「山林コース活動地（通称：ケヤキ林）」

1991 年大型台風による風倒木被害を受けた人工林に 1993 年からケヤキ・ヤマザクラなどの広葉樹等を植栽した森（標高 750～800m、約 2ha）。山村塾設立メンバーで地権者の宮園福夫さんから、ケヤキが適地でなかったため、ヤマザクラを補植するなど試行錯誤してきた話を伺った。ケヤキのほかにはクヌギ・コナラ林、アカマツの植栽地もあり、30 年のボランティア活動によって少しずつ育ってきている森林を見ることができた。

振り返り会

山村塾の二つのフィールドを継続的に調査してきた朝廣和夫さんから、ドローンによる調査データや森林構造の紹介をいただいた。朝廣さんからは、山村塾の 30 年にわたる広葉樹の森づくりから学ぶことができる観点と課題として、「広葉樹林の育成技術が手探りだったこと」、「山林所有者の関わり方と市民参加の意義を踏まえたデザインの必要性」、「広葉樹材の活用方法」、「継続的なモニタリングと管理計画の必要性」などお話しいただいた。

（参考）

人工林の多様性を高める森づくり事例ガイド 2021 年 3 月ベータ版 編集・発行：NPO 法人森づくりフォーラム　※68-71 p に山村塾の取り組み紹介

https://moridukuri.jp/wp/wp-content/uploads/2021/03/MoridukuriForum_-casestudy_guide_202103.pdf

NPO によるスギ・ヒノキ人工林の群状複層林施業におけるヤマザクラ・コナラの 11 年の成長: 福岡県八女市黒木町における NPO 法人山村塾による粗放的な管理活動を事例として，芸術工学研究，朝廣 和夫（九州大学大学院芸術工学研究院環境デザイン部門），2021
※なお、コナラの育成不良は照度に加え、外生菌根菌不足という土壌環境の影響が推定された。
https://catalog.lib.kyushu-u.ac.jp/opac_download_md/4372249/34_p001.pdf

懇親会
幅広い年代や地域から熱心な方々の参加があり、非常に盛り上がった。

◆２日目：６月２日（日）ディスカッション・意見交換会

早朝オプションツアー
ヤギによって棚田保全を行う笠原棚田牧場や地域の棚田と茶畑などを見学した。美しい棚田の風景がたいへん好評だった。

話題提供
1　坂場 光雄さん（フォレスト 21 さがみの森）
1997 年から始まった、神奈川県相模原市「フォレスト 21 さがみの森」の活動についてお話しいただいた。コンセプトは、「多様性」と「継続性」。なお、アフリカ・マリで活動する「NPO 法人サヘルの森」の活動についてもご紹介いただいた。

2　鎌田 隆さん（油山自然観察の森　森を育てる会）
1995 年から始まった、福岡県福岡市「油山自然観察の森　森を育てる会」の活動についてお話しいただいた。昆虫や多様な動植物が生息・観察できるような森づくりを目指す「カブトムシの森」、幼木から大径木までのさまざまな成長段階が見られる森づくりを行う「アカマツ林」についてご紹介いただいた。

ディスカッション

朝廣：人は、薪や炭など里山利用の中で、植物・森林の遷移を止めてきた。地域の自然の違いによって利用の違いもあり、暮らしの文化の多様性、生き物の多様性もあった。日本の絶滅危惧種の 5 割は里地・里山地域にあるということは、日本人の文化的多様性と動植物の多様性がセットであったことを表している。それが、都市化、近代化の中で失われてきた。森づくりで近代化と言えば、スギ・ヒノキの一斉植林もその一つだが、今後どうやって私達の暮らしの多様性、そして、森づくりや生き物の多様性を取り戻していくのか？都市化、近代化をもう一度問い直すということでもあるだろう。また、今、地球温暖化という新たな脅威、新たな時代が訪れる中で、対応が求められているのだろうと思う。老舗の 2 団体に充実した活動の報告をいただいたが、一方で課題もあるのだろうと思う。

小森：山村塾は、農業・林業をやっている方に、よそから来た人達が交流しながら、同じ釜の飯を食いながら、汗を流そうというコミュニティを作るのが目標だった。労働をする喜びを分かち合うことを重視したので、2 団体の話を聞いて、計画や調査を疎かにしていたことに気づいた。専門的な知識が必要なゆえに、意見が分かれることもあると思うが、意思決定はどのようにしているのか？

坂場：意思決定といってもなかなか難しいが、いろんなチャレンジすることはよいと思っている。下手に止めないで、やってみることが一番で、それを見守ることが大切。体験が大切だと思う。

鎌田：例えば、アカマツをどうしようという時には、研究者を呼び、みんなで話を聞く。基本的にみんなで納得しないと次に進まない。みんながOKという落しどころで活動を行っている。

朝廣：さがみの森は 20 ヘクタール、森を育てる会は 1.3 ヘクタールというフィールドとの関係があるかもしれない。新しい活動や取り組みを生み出すのも、市民活動の役割。また、みんなで一歩一歩進んで行くのも、市民力を発揮するいい動き方ではないかと思う。一方、山村塾のように農家・林家と一緒にやっていくことに喜びがあるというのも、非常に大切。共通の課題としては、森の持続性同様、活動や団体の持続性、考え方や技術をどう伝えていくのかということがある。今後の団体の継続性について聞かせていただきたい。

坂場：さがみの森は知ればよいところだが、なかなか知られていない。イベントなどで知る機会をたくさん設けていきたい。誰でもできる作業は多く、楽しみながらやれる場所にしたい。植物が好きな人にはすごく面白い場所。季節ごとにいろんな種類もあるし、一回来れば、楽しみとして続けられると思う。歩くだけの人でもいいと思うし、いろんな活動ができる。自分で楽しみを見つけることがチャンスになると思う。

鎌田：会員が 30 人を切りそうで危機的状況。数年前までは子どもがいる家族もいて 50 人ぐらいだ

った。伐採の活動にウェイトを置きすぎたのが原因。以前は、作業に加えてレクリエーション的な活動もあり、親子で参加してくれていた。あと 2 年ぐらいは伐採が続くが、会員を増やすための方策を考え、できることから始めようとしている。市民の森で活動しているので、遊歩道近くで伐採をする時にはギャラリー（一般市民）が通ることもあるため、伐採作業の解説をする人員を配置したり、解説パネルを置いている。ホームページや Facebook を見て、年間 5、6 人は問い合わせがあり、半分くらいは入会してくれる。ただ、退会する人の方が多く、いろんな取り組みをしていかなければならない。

小森：100 年、200 年という森の時間の経過と、10 年、20 年という関わる人の時間の経過があまりにも違う。さがみの森も、森を育てる会も、いろんな人が参加して、一緒に考え学ぶ場を大切にされているが、山村塾は中山間地でアクセスがよくないので、年に数回参加という人に支えられている。そのような人達に主体的な意見をもらうことは結構大変で、森の今の状況と今後の状況などをもっと見えるようにして、いろんな人に関わってもらえるようにするとよいのではないかと考えている。
朝廣：自然の再生力、芽生えてきた植物を活かしながら、一方で人がどう手をかけながら育てていくか、どう楽しむか、活かしていくかが重要な今後の課題。また、新しい人達を巻き込んでいくためには、いろんな楽しみ方を作っていく、いろんなアクセスを作っていくのが大事。日本では、森に所有者がいるので、話し合いながら市民のアクセスを作っていくことが、市民参加の森づくりの大切なところだろう。また、ドローンを使って得たデータを活かすなど見える化をして、伝えていく努力も更に必要だと感じた。文化人類学では文化的適応と言うが、森づくり活動を文化事業としてやっているという視点が必要なのではないか。文化としてどう育んで、どう伝えていくかが、私達の生存活動のためにも必要とされているのではないかと感じる。

＜報告者＞鹿住 貴之
（認定 NPO 法人 JUON(樹恩) NETWORK 理事・事務局長）

参加実績・参加者アンケート

＜視聴再生数・参加者数＞

日程	プログラム	実績	備考
配信	基調講演 （中村 桂子さん）	942 回	YouTube 再生回数（6/2 まで）
配信	基調講演 （藤井 一至さん）	842 回	YouTube 再生回数（6/2 まで）
5 月 8 日（水）	オンラインセッション 1	112 名	当日（参加 97 名、スタッフ・出演者 15 名）
5 月 20 日（月）	オンラインセッション 2	71 名	当日（参加 63 名、スタッフ・出演者 8 名
6 月 1 日（土）～2 日（日）	フィールドセッション	44 名	一般参加 20 名、実行委員・講師・関係者 14 名、山村塾スタッフ 10 名
	合計	1,784 回 227 名	-

※オンラインセションのアーカイブの視聴回数は、Microsoft365 ドライブ上で動画データを再生させる方式のため、回数記録が不可。（有料プログラムは YouTube 上にアーカイブ化不可）

＜参加チケット申込数＞

項目名	申込数	備考
基調講演の視聴のみ	501	
早割 オンラインセッション	122	
学割　オンラインセッション	14	
一般 オンラインセッション	75	
オンラインセッション アーカイブ	4	5/21～6/2 販売
応援・協賛	9	基調講演+オンラインセッション参加費を含む
一般 フィールドッセション	20	うち事前キャンセル 3 名,直前キャンセル 2 名
学割 フィールドセッション	5	
合計	750	

＜各プログラム参加後の感想＞

◇オンラインセッション（5/8、5/20）

アンケート回答数：56

１．今回のセッションについてどのように感じましたか？

回答	回答数
興味深く感じた	22
新しい情報・知見を得ることができた	31
普通	2

２．参加前に比べて、新たな気づきや発見があれば具体的に教えてください。

5/8：オンラインセッション１

・森林保全に企業を巻き込む事例があったので参考になった。

・企業の森作りの実例がとても参考になりました。自然共生サイトが身近なものであることを感じられた。

・各地、各団体の取り組みがどんどん進んでいることに励まされました。

・森や自然と関わりたい人と関わってほしい人をマッチングするシステムがあることを知りませんでした。

・市民団体や企業が参画している山林がたくさんあるということがわかった。

・森林業界にとってチャンス到来ということ、森林業界側と企業側との認識のズレ、日本の生物多様性は人が手を入れないと守れないような状況であること。

・ボランティアとして参加する立場と受け入れる側の立場の認識の違い。

・人と自然の共生によって成り立つ生物多様性のありかた。

・具体的なパートナーシップの形が見えたのが良かった。

・具体的に自然共生サイトの事例を知ることができたことは収穫でした。

・プライベートとコモンの間。

・土地所有者が積極的に保全活用を進めて、多様な連携が生まれた奈良の事例。団体や地域住民が土地所有者に自然環境の価値やサイト認定の促しを行って初めて、保護活動ができた・・・という例が多い中、このような事例が増えることへ期待したいと感じた。

・自然共生サイトの認定というものの成り立ちや、画期的なポイント（小さなサイトでも登録可能、結果的に生物多様性の場であれば登録できるといった点）を知ることができました。

・企業の取り組みが増えていること。林業に携わる方とボランティアとの意識のズレ。

・TNFD や自然共生サイトなど、森林管理関係の取り組みについて知らないことがたくさんありました。特に林野庁の方針や大企業の考えの流れについて知ることが出来たことが大きかったです。また、最後の質問コーナーで出てきたボランティアと体験の区別、考えさせられました。

・生物多様性のために手をいれることと、木材生産や人のための森林の活用とのバランスや、企業やボランティア、色々な人と関わり合いながら森林保全活動を行うとき、お互いのビジョンや目的、問題点をきちんと共有するように気をつけなければならないと気付かされた。

・林業と生物多様性の共存。

・支援者と被支援者で生物多様性に対する考えや向いているベクトルが異なる可能性があり、活動を継続するために意見交換や配慮が必要であることを学んだ。また、環境保全と人間活動のバランスについて、手を入れることが前提の自然共生サイトや、むしろ適切に手を入れていかないと生物多様性を保つことができない場所も多いことがわかった。手を入れて森を活かすという言葉が印象に残った。

・環境省の取り組みについて知ることができた。

・生物多様性をめぐる新たな制度・政策について。森の活用に関して広く協力者（パートナー）を得ていくための具体的ノウハウ。
・企業がネイチャーポジティブに積極的であること。企業と森（自然共生サイト）のマッチングの仕組みが存在すること。
・多様な OECM の例のお話の中で、図らずも結果としてそうなったところもあるというのに感銘を受けました。森の植物や虫や動物達が生きる為の営み自体がそれであり、それを尊いと一層思うと同時に、ヒトの営みもその一部に回帰できれば良いのではと気づきました。
・自然共生サイト、ネイチャーポジティブなどの理解が進んだ。市民活動として里山活動を行ってきたが、ネイチャーポジティブを目標とする新たなフェーズに入ることも必要かと認識させてくれた。
・企業が、関われる森を求めていること　マッチングが求められていること。我々は、関われる森を求めている市民や市民団体と、つながりを広めていくことができたらいいことに気付かされた。
・田島さんの「森林ボランティアは林業者にとってはいつも以上に負荷を載せている」という内容。結構森林ボランティアに来てほしい・やってほしいという意見が主流であるが、山林事業観点からは植林の本数の違いなど、負担になることも多い（もちろんその分事業を知ってもらう、関係人口創出などありますが）のは、あまり話題にならないので。
・自然共生サイトというものがあることを初めて知ることができた。森を開くという視点、ビジネスと環境保全、地域の取り組みなど複合的な役割を持たせることをすでに実現されている方々がいて素晴らしいと感じた。林業をされている方でも、専門家の方に調査に入っていただいたり、企業とのマッチングなどで今後を模索されていて、そのような可能性もあることを知ることができた。
・自然共生サイトがどんなものか理解できた。
・さまざまな立ち位置の方の事例をうかがうことができたことがよかった。参考になった。特に、林業者や管理者からみたボランティアが参加することの良し悪し（世話をやかなければならないことなど）は、私の NPO からの話を聞くこともあり、本当にそうだなと思いました。

5/20 オンラインセッション 2

・坂田さんの、皆伐に関するコメント、的確で良かったです！
・しがらの有効性。
・水の山、という概念が自分には新鮮に聞こえた自然に合わせて活動することが大切であるということを学んだ。
・ふだんモヤモヤと考えていることをきちんとしたデータや研究、言葉でお聞き出来て頭の中が整理できた。
・みなかみ町でされているモニタリング調査について初めて知った。
・水の流れやその力について、あらためて考えました。
・コンクリートによる治山・砂防工法が積極的に進められているが、逆に森林の水源涵養機能、土砂災害保全機能を低下させてしまう可能性があることに驚いた。逆に、しがらといった簡易な構造で上記の機能発揮に貢献出来るということが分かった。
・いろいろな地域で活動されているのを聞いて心強く感じました。
・赤谷プロジェクトの存在。
・林道でも、水でこわれるところがあるので、改めてよく見たい。赤谷の森では、皆伐と、猛禽類のモニタリングをリンクさせているのが興味深かった。Nacs-j の会員で、よく会報に赤谷の森が紹介されるが、口頭で聞く機会になり、よかった。
・赤谷プロジェクトで得られた知見として、伐採後 20 年程度では山のライフスパンに対し短すぎて、期待した効果が得られないこともあるという

点は、今後の取り組みの中で念頭に置いておきたいと思いました。
・坂田昌子さんの取り組みを知れてとても良かった。
・「しがら」について、森づくりに生かしたく、詳細に知りたいと思った。森づくりの調査方法について、詳しく知ることができたら、参考にしたいと思った。
・しがら組等、昔から続いているものの確かさが解かりました。モニタリングの重要性についても参考になりました。森林と生物多様性について、表面的なことではなく見えない土の中や水の流れの影響を具体的に知ることができた。自然科学の観点があることで、現状を理解しやすくより多くの気づきや発見があることがわかった。ジビエなど食の歴史について調べてみようと思った。今回全国の集いに参加したことで、人間も含め、生き物が生きていく多様性について改めて気づきを得ることができた、この気づきを周りの人に伝えていこうと思う。これまで同様、森林と関わり、みんなでより良い地球環境をつくっていこう。

３．今回参加して、新たに取り組んでみたいことは何ですか。

5/8：オンラインセッション１

・ボランティアへの参加。
・先ずは企業の森づくり。
・森を開くこと、健康診断など。
・自分が関わる地域の森に、もっと地元の人を呼び込み関わってもらえるような工夫がしたいと思いました。本当の意味での森のコモンズ化、地域のファンになってもらう取り組みなど、ヒントをたくさんいただけました。
・里山に関わる人達を広げていきたい。
・まず、専門家との森歩きをしてみたい。
・他の具体的な事例を調べてみたい。
・植林への取り組みを希望する企業を、森林の保育に誘導していきたいと思う。
・私の働いている農場でも自然共生サイトに登録をしてみたいと思いました。
・同じ地域にどんな団体があり、どんなパートナーシップが築けるのか常に意識を持って、日々の活動に取り組むことが大切だと感じた。
・企業とのパートナーシップについて、検討もありと思えました。
・プライベートとコモンとの関わりを取り持つ役割の重要性を感じた。
・担い手不足の解消に向けて、教育機関・企業との緑地保全ボランティア等のマッチング事業。
メディアの活動をしているので、自然共生サイトについて取り上げてみたいなと思いました。
関心を持ち始めたばかりなので、今やっているボランティア活動を見つめ直したり、いろいろな取り組みに学びたいと思いました。
・持続的な森林管理をする上で自分はより踏み込んだ関わり方（数年はボランティア）をしたいという思いが強くなりました。
・地元の竹林はどのように人と関わりを持っているか調べる。また、理想の活用の仕方や生物多様性を守るために必要な手入れとは何かを考える。
実家の山を今後どのように管理していくのが良いかを引き続き考えたい。
・様々なコミュニティーに参加していろいろな立場の人と意見交換したいと思った。
・身近に放置された山林があるが、ノウハウがなくそこをどうにかできないかそこをどうにかできないか検討してみたい。と思った。
・森の活用に関するパートナー探しをしてみます。
生物多様性の保全に重きをおいた森づくりで、その活動費用として木材生産ではなく企業からの金銭補助を受けてみたい。
・自分がどう思っても感じても社会は変わらないという諦めがあるのですが、自分が出来る事をするだけでもしないよりはずっと良いはずと少し思う事が出来ました。まずは学ぶ事、賛同できる団体に習っていきたいです。

・里山活動にネイチャーポジティブ的な考え方を取り入れてみたい。
・多様な主体が関わりやすい森づくり。開かれた森づくり。
・事業側として新たに企業・市民団体とどのようなかたちでつながっていくのか。
・まだ具体的にはなっていないが、週末林業、環境教育、地域やビジネスが結びつけるような活動に関わりたいと考えている。
・場所を持たない自分の立場から、違う立場の人たちとどうつながれるか考えてみたい。

5/20 オンラインセッション 2

・しがら組を地元の斜面林で試してみたいです、できるかな。ちょっと不安ですが森の仲間に話してみます。
・企業と森を繋ぐ。
・しがらについて、取り組める場所を探して実践してみたい。
・調査。
・しがら組みについて調べてみようと思った。
・自分の地域に同じような活動があれば関わりたい。無ければ、何かそのようなことを始める仲間作り。
・地元でしがらを作って環境の変化を確認してみたい。
・近くの公園ですが、しがらにより斜面の裸地化を食い止めたいと以前から思っていましたが、実行に移したいと思います。
・暮らしている場所の自然の状況を知り、よい環境が作れるように動きたい。
・赤谷プロジェクトの活動地を見学してみたい。
・しがら作り、自分の地域のシカなどの生態調査。
・更に勉強して、自分ができることを知りたい。市民参加型の森づくりをさらにすすめていきたい。
・山や森を開発等で介入すると必ずおかしなことが起きます、自然を人間が操作できるものでは無く、自然に生かされていると感じることが大事ですね、自然や森と一体となる様な、活動が出来たらいいと思います､小さなことでも。
・視野を広げ、活動していることを深くみていこうと思う。深めることで新たなアイデアがうまれることを楽しみにしています。

4．ご意見・ご感想、ご提案や取り上げてほしいテーマや地域等があればお聞かせください。

・ボランティアに頼らない保全活動。
・今後とも森づくりのテーマをお願いします。
・都市の森での「自然共生サイト」の登録事例があれば知りたいです。
・木材業等、林業の裾野に位置する業界は、生物多様性の保全に対して何をできるのか。
・私の地域では、ニホンジカが増え過ぎてしまい、生物多様性が低くなってきています。そういった課題に対する解決方法や成功事例を知りたいです。
・公有林の木は管財として扱われるため、間伐した材を有効活用することが非常に難しく、切り捨て間伐しか選択肢がない場合が多い、こうした材を有効活用できるような法制度の整備が必要だと思う。
・私が福島県で活動しているため、福島県でのお話が聞いてみたいなと思いました。
・OECM 申請にあたり、どんなところに課題があるのかなどもう少し具体的に知りたかった。事例の中でも苦労したところや、こんなことに困った、そして乗り越えたというお話がもう少し聞きたかった。
・声がハウリングしたような聞こえ方をして、聞きとれないことが多々あった。部屋の反響やマイクとの距離など確認いただければと思います。
・都市化された中に残る森について、どう守っていくのか、土地活用や税制も含め、取り上げていただきたいと思います。
・様々な立場で自然共生サイトの認定を受けた方々の取り組みが聞けて大変面白かったです。また、企業が参加する森づくりというと、植林がま

だイメージとして強く、そのイメージに疑問を持っていたのですが、現地で活動する方々も、その点にギャップがあるという声を直接聞けて勉強になりました。
・生物多様性についてコンパクトな時間ながら
・人と自然との関わり、様々な立場の登壇者それぞれから見る良いと思った活動、理想の自然との関わりを提示し合って話し合うようなディスカッションなどがあれば聞きたいと思う。
・林業や農業を活かしながら若者が生活できる環境ができると良い。
・森と川や海などの水環境のつながり。森と防災の関係性（防災への生かし方）などについても取り上げてほしいです。
・森林保全関係ページに出てきたので、予備知識なく初めて申し込んだ。今日のセッションＩを視聴するまで構成など、全くわからず基調講演の動画がなぜもうあがっているのか？など疑問だった。使われていた用語なども、この道のベテランの方には今更であろうが、メモも間に合わず、調べているうちにかなり聞き飛ばしてしまった。（ＮＡＣＳとか略語が特に）事前にレジュメ・・・は、わがままでしょうか？

・高川様がディスカッションで言及されていましたが、森林資源の活用と生物多様性保全の関係について、より深く知りたい。また、森林に関する研究者（研究）と林業者（実践）との連携について現状について知りたい。企業にとって保全活動のインセンティブになりうるものがなにか、深堀りしていただきたい。
・私自身、山もお金も持たないので、山を持たない人の活動への関わり方、経済的にも回る仕組みを持ちながら、自然環境や里山生活を守っていく仕組みを学びたい。
・千葉県など、都市の森。
・里地里山（二次林）と　自然植生の違いや特性。
・ありがとうございました。
・湿地再生について。
・森林と果樹との関係性をどのように考えていくか？
・しがら柵、しがらの活用で成果を確認できている場所や、取組事例について紹介していただきたい。
・坂田さんや森本さんの発表はもちろん、質疑応答で次々と出てくる知識やご経験に圧倒され、非常に充実したセミナーでした。
・シカの問題をはじめ、アライグマやソウシチョウ等による生態系への影響と対策について。
・問題点はここまではっきりしているが、批判では耳を貸してくれない。現代土木のコンクリート依存の流れとの折り合いをどうつけていく方法があるのか？現代土木、特にコンクリートの施工をされているような立場の方にもご意見を伺いたい。小森さんの実践の話をお聞かせいただきたいです。またシカの食害が酷いので、シカの研究についての話をお聞かせいただきたいです。6 月に参加させていただきたかったのですが、総会や主催事業と重なり現地に行くことができずとても残念です。なかなか学びの場に出会えない現状がありますが、平日夜のオンラインは参加しやすいところもあります。このような学びの機会を今後もつくっていただけると大変うれしいです。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。
・今後も楽しみにしています。
・森林や自然×こどもや子育てについて。森を活用する事例。若い人たちが参加する里山づくりの事例。

５．基調講演の動画（中村桂子さん・藤井一至さん）はご覧いただきましたか？

回答	回答数
視聴した	24
これから視聴する	32

◇フィールドセッション（6/1～2）

アンケート回答数：15

１．今回のセッションについてどのように感じましたか？

回答	回答数
興味深く感じた	3
新しい情報・知見を得ることができた	12

２．印象に残った笠原地域の魅力は何ですか？

・急斜面にある小さな棚田群（石垣の美しさ）と茶畑の景観。

・えがおの森の方々のおもてなしが素朴でとても居心地がよく 2 日間お世話になりました。古い校舎を改築してそのまま活用されているのも森林活動にぴったりだった。笠原地域の棚田は素晴らしい。後世に残そうと山村塾と共に試行錯誤されていることも、ヤギの活用に至るまでの苦労を聞くことができてよかった。2 日目朝のツアーで魅力をより深く感じることができた。それから、パッチワークの森づくりは外部と協力してできることが素晴らしい、この笠原地域の魅力でもあると思った。

・棚田景観、山村塾さんの取り組み。

・地域の気候に合わせてお茶お米を作っているところ。棚田の景観が残っていること。林として以外の価値を求めるような森林があるところ。

・山村塾

・合鴨農法。カモがおいしい。日本酒がおいしい。地域住民が元気で、外部の人とつながる包容力があるところ。

・多様な風景が一つの地域にある。針葉樹林（色々な林齢）、広葉樹林、棚田、茶畑、石垣。山村塾が一つの核となり、内部・外部の人が関わり合い色々な取り組みが根気強く楽しみながら継続されている。

・棚田の石づみの壁（長年大切に手入れをされてきたのだろうと感じました）。

・棚田の石積みとその棚田で今も米作りをされている方が多いこと。山村塾が長年地域の方々と共に活動されていること。

・石積みの棚田、住居の周囲の石垣。

・山間部だが、昔からの棚田、石垣、暮らしが守られていて美しい風景だと感じました。

・棚田、石垣、お茶畑、やぎさん、空気、のどかな雰囲気。

・整然とした石積み、傾斜地の茶畑、これで山肌が広葉樹林の彩が加わったら風景として画力があると思いました。

・いつもあたたかく迎えてくれる。

３．参加前に比べて、新たな気づきや発見があれば具体的に教えてください。

・今回のような、全国的に活動している森林関係の集まりがあるとは、知らなかった。様々な関係者が集まってそれぞれの視点からの話があり、とても刺激になった。今後も機会があればぜひ参加したい。オンラインセッションやフィールドセッションなど色々あり、分かりにくい（どういう風に学んでいいか）部分もあり、もっと分かりやすく親しみやすい形の検討も必要かと思った。

・日頃から森林で活動はしているが、今回参加して森林も自然に対しても視野が広がった。いろんな場所でいろんな活動が行われていること。世界までも地球環境の視点で活動していこうと考え深かった。いままでも他県の森林を見てきたが、深く見る目をもってなかったと感じた。基調講演の先生のお話は、深くこの視点を本質に据え忘れないようにしようと思った。オンラインセッションでスピーチしてくださった方々からも多くを学び、フィールドセッションに参加するのがとても楽しみだった。参加者の皆さんは、多様な背景だったが、同じ方向を向いている感覚を感じられて楽しい 2 日間になった。オンラインセッションからフ

ィールドセッションまで濃い内容で良かった。私は改めて環境教育とは、を考え、自分にできる役割を探ってみようと思った。
・針広混合林について。
・土壌、菌、明るさ、競争などの様々な理由によって植林をしてもうまく育たないこともあると学んだ。普段私が行っている昆虫の実験と比べて、森でも取り組みはすぐに結果が出ないことが多い。そのため実験的な取り組みを同時並行で行っていくことも重要だと思った。手入れされた人工林とそうでない人工林で土の色や柔らかさ、明るさの違いを肌で感じることができて良かった。
・針広混交林の難しさ。
・針広混交林を実践するのは、想像以上に難しいということ。菌根菌について（ヤマザクラが分散する理由、コナラとヤマザクラの共生は難しいという理由）。森林整備における正解はないということ。
・人それぞれ色んな生き方があるな、と。
・針広混交林にしていくことの難しさ。元の植生、環境ごとに大きく条件が異なること。
・あらためて森林に関わるときの時間の長さを実感しました。数十年後のことを考えながら作業を続けていくことの大変さ、人（数十年で子ども→大人になりますが）の時間とは違う。
・ヤマザクラはまわりに色んな植物があった方が元気だし生きるということ。針葉樹の中に広葉樹を一部植樹する方法。生えてきた植生を見て植樹する木を選ぶ方法もあるということ。耕作放置地とヤギの組み合わせ。
・たくさんあって整理できませんが、若い人たちの参加が多くて未来が明るく感じられました。30年の取り組みがいくつかあり、皆いろいろな場や立場で模索しながら取り組まれていること。
・様々な方向から森にかかわりを持っている方々がいらっしゃって、その事例にとても勉強になった。出会った方の言葉をヒントにして、まずは気になっている地域を実際に歩いてみて調べてみようと思いました。
・自然に生えてきた木を活かすという方法もあるということ。同じ日本であってもそれぞれの地域の特性によって植える木を変えるなどしないと同じ方法でうまくいくとは限らないこと。針広混交林をつくるのは難しいということ。広葉樹の森は土がふかふかだということ。ヤギに雑草を食べてもらい、手入れをするという方法。ヤギはおいしい草しか食べない。
・土地それぞれで解決策が異なってくるのだとわかりました。地理・気象条件のみならず、地権者の意思等それぞれのフィールドでの最適解が違う中ではありますが、今回のように集まって話をすることで、全国に同じように頑張っている人がいるのだなと励みにもなり、事例も知れ、よい会だったと思いました。
・参加者が比較的若かった。2日目から来たので属性がよくわからないが、活躍を期待したい。事務局が東京にあって、事務局もフィールドに来て、フィールドセッションがあるのもいいと思った。２回のオンラインで接した事務局の方をお見掛けできてよかった。

４．ご意見・ご感想、ご提案や取り上げてほしいテーマ・地域等があればお聞かせください。

・宮本様　大変お世話になりました。受け入れ先の山村塾の小森さんほかスタッフにも大変お世話になりました。このようなステキな会に参加出来て良かったです。ご苦労様とありがとうございました、のお礼を申し上げます。そのうえで提案など：皆伐跡地の植林や生態系回復の方法や関係者との連携方法など。　人口減少の中、中山間地の里山保全や奥山の保全活動の事例などを知りたい。森や森林に関わる人を増やす方法のセッションなど。
・オンラインセッションからフィールドセッションまでコーディネイトしてくださった運営事務局

の皆さまお疲れさまでした。ありがとうございました。オンラインが事前に何度も視聴できたことも良かった。森林活動に参加する人は、年齢層が高いように感じます、今回は学生も多く参加していましたが、現場で作業する面白さを知ってもらうためにどうしたらよいか、そういう活動をしている事例を知りたい。九大の朝廣先生から広葉樹の研究をしている大学は少ないということでした、今回貴重な場に参加できてよかった。こういう環境の本質を貫いているまれなケースに出会いたい。子どもの頃からの環境教育が重要ですが、作業に興味をもち危険を認識できる人は限られます、今回、様々な地域で取り組みをしているリーダーをみて、いろんな人それぞれのやり方に興味をもつ人が集うコミュニティが森林活動でもあるように感じた、今後もいろんな活動に出会っていこうと思った。今後のヒントになることを考えることができた。

・今回のフィールドセッションに参加し、パッチワークの森の取り組みやケヤキの森の取り組みを五感で感じながら学ぶことができ、非常に有意義な時間となったと思う。また様々な立場の人と意見交換をして、環境保全を進める人の考え方など、色々な考えを知ることができた。また、同年代の人たちの話を聞いて刺激を受けた。今後の活動にも時間が合えば参加していきたいと思った。

・自分が将来どう働いていきたいのか具体的なビジョンが描けました。ありがとうございました。

・生物多様性の保全と、利益を出すための生産活動を両立するためにはどうすればいいのかディスカッションしたい。

・不経済人工林の自然林への誘導。

・大学の学生さんだけでなく、若い方が熱心に参加されていて印象深かったです。

・シカに植物（下草・芽）を食べられてしまった場所の戻し方。

・「流域」という考え方に基づいた人の暮らし方。流域治水でまかなうインフラ（治水もですが）。

・国土全体のうち荒廃した森がどれくらいの割合で、その森へのかかわり方などを研究や取り組みをしている方々の話を聞いてみたい。

・様々なフィールド、色々な方のお話を聞かせていただき、大変勉強になりました。オンラインで聞くのとはまた違ったリアルなお話も聞くことができ良かったです。夜の懇親会も最高でした。一泊三食付きで参加費がとても安く感じました。遠方から来る身としては大変ありがたいですが、もう少し払って帰ろうかと思ったくらいです（笑）。

・対象地と周辺景観の連続性を最近よく考えます。今回も山村塾の拠点と対象地が離れていて初見の人間は「えがおの森」までの森が寂しいなと思ってしまいました。落葉広葉樹は景観に美しい木が多いので、町中に少しずつ、用材としての価値ではなく景観のために植えてあると、広葉樹に取り組んでいる土地であるという印象が生まれるのではないかと思います。

これまでの「森林と市民を結ぶ全国の集い」

回	開催地	開催日程	開催テーマ
第１回	東京	1996/2/16～18	市民が支える森林づくり
第２回	東京	1997/3/1～2	「市民が支える森林づくり」の実現をめざして
第３回	大阪	1998/2/21～22	「市民が支える森林づくり」の新たな合意をめざして
第４回	宮城	1998/12/5～6	「市民が支える森林づくり」の新たな活動の広がりをめざして
第５回	高知	1999/8/19～22	山の中で考えよう！「みんなで支える森林づくり」 私たちがめざすべきものは何か
第６回	東京	2000/9/15～17	暮らしとともに築く森づくり
第７回	広島	2001/2/9～11	新世紀　森林づくり・地域づくり・人づくり －よりよき関わりを求めてー
第８回	群馬	2002/9/14～16	ともに森を治める社会をつくりだすために 森と人と未来のための群馬ビジョン
第９回	北海道	2003/11/1～4	地域に根ざした森林とのおつき合い 森林づくりの現在を理念から行動へ
第１０回	東京	2004/9/18～20	森とともに創るこれからの社会
第１１回	愛知	2005/8/26～28	森がうごく、人がうごく。そしてネットワークへ。 森と人との関係をさらに深める。
第１２回	大阪	2006/11/11～12	みんなが創る森づくり　森と共に生きる社会をめざして ～参加から協働へ～
第１３回	福岡	2008/3/8～9	暮らしにつながる森づくり
第１４回	東京	2009/12/5～6	今、あらためて問う「森林」の価値
第１５回	岐阜	2011/6/4～5	裏木曽の森を歩こう
第１６回	東京	2011/10/9～10	世界森林アクション・サミット
第１７回	島根	2012/11/2～4	神在月に集え！島根へ！～森林と木を活かす縁結び～
第１８回	東京	2014/3/22～23	暮らしとつなげる森林の恵み～都市の視点から考える
第１９回	福島	2015/6/12～14	東北復興に果たす森林の役割と市民活動
第２０回	東京	2016/6/11～6/12	温故知森～森と私たちとを結ぶ新たな道～
第２１回	京都	2017/6/10～6/11	伝統－森林－未来へ ～森林と関わる暮らしの歴史を学ぶ～
第２２回	東京	2018/6/16～6/17	変わりはじめた「山」・「ひと」・「街」 ～森の価値を分かちあう～
第２３回	静岡	2019/6/15～6/16	あなたの森林・里山との「関わりしろ」を考える
第２４回 【中止】	東京	2020/3/14～3/15	世界が取り組む SDGs を、私たちの森に活かす！ ～ともに学び、ともに歩む仲間をつくろう～

回	開催地	開催日程	開催テーマ
第 25 回	東京、岩手、宮城、福島	2021/3/7～14	「森林と市民を結ぶ」新たなカタチ ～東日本大震災から 10 年、コロナ禍のいま～
第 26 回	東京	2022/5/18～6/4	森は誰のもの？～森林コモンズを考える～
第 27 回	東京	2023/6/10～11	続・森は誰のもの？ ～森林コモンズを活かす明日へ～

※第 1 回～第 23 回は現地開催。第 25 回、第 26 回はオンライン開催。第 27 回はオンライン及び現地開催。

「森林と市民を結ぶ全国の集い 2024」実行委員 スタッフ名簿

名前	所属・肩書	役割
内山 節	哲学者、NPO 法人 森づくりフォーラム代表理事	実行委員長
鹿住 貴之	認定 NPO 法人 JUON（樹恩）NETWORK 理事・事務局長	副実行委員長
赤池 円	私の森.jp 編集長	
小野 なぎさ	一般社団法人 森と未来 代表理事	
國岡 将平	合同会社 MANABIYA 代表社員/鳥取県智頭町地域林政アドバイザー	
後藤 洋一	NPO 法人 樹木・環境ネットワーク協会 事務局長	
小森 耕太	認定 NPO 法人 山村塾 代表理事	
坂本 有希	フェアウッド・パートナーズ、一般財団法人 地球・人間環境フォーラム	
寺川 裕子	NPO 法人 里山倶楽部 事務局長	
水谷 伸吉	一般社団法人 モア・トゥリーズ 事務局長	
林 視	公益社団法人 国土緑化推進機構 政策企画部長	国土緑化推進機構
矢島 万理	公益社団法人 国土緑化推進機構 政策企画部	国土緑化推進機構
大石 淳平	認定 NPO 法人 時ノ寿の森クラブ 事務局長	監事
藤原 智史	林野庁 森林利用課 山村振興緑化推進室　課長補佐	オブザーバー
宮本 至	NPO 法人 森づくりフォーラム 事務局長	事務局長
石山 恵子	遊学の道 project 代表	事務局
中沢 和彦	NPO 法人 森づくりフォーラム 広報部スタッフ	事務局

「森林と市民を結ぶ全国の集い 2024」報告書
発　行　日　　2024 年 8 月
編集・発行　　「森林と市民を結ぶ全国の集い 2024」実行委員会
事　務　局　　NPO 法人森づくりフォーラム
東京都文京区本郷 2-25-14 第一ライトビル 405
E-mail：tsudoi@moridukuri.jp
編集・校正　　宮本 至、石山 恵子、中沢 和彦
本集いは、「緑と水の森林ファンド中央事業」として実施されました。